

創造都市ネットワーク日本 (CCNJ) 総会 要約

< 平成26年2月26日収録 >



司会（一般社団法人ノオト 金野幸雄氏）

皆様、お待たせいたしました。ただ今から、「平成25年度創造都市ネットワーク会議」を開催します。本日の会議の司会進行を務めます、一般社団法人ノオトの金野と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、本日のプログラムに入ります。最初に、主催者として本ネットワーク代表幹事団体である林文子横浜市長のご挨拶でございます。林市長、よろしくお願いいたします。

■開催都市挨拶



横浜市長 林文子氏

皆さまおはようございます。本日は創造都市ネットワーク日本、CCNJの総会にあたりまして、青柳文化庁長官をはじめ、各地の皆さまにおいでいただき誠にありがとうございます。歴代の長官がお揃いということで最強の布陣でございまして、佐々木先生も熱心に応援してくれますから、本当に私達としても大変心強いところでございます。また多くの皆さま方に、昨日開催の「東アジア文化都市 2014 横浜」のオープニングにご出席いただきました。本当にありがとうございます。そして24の自治体から名産品のご提供を頂きました。この場をお借りいたしまして、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

昨年の設立以降、このCCNJには新たに9の自治体、2つの団体が加わりました。（※平成26年2月26日時点）また各地でワークショップやセミナーを開催いたしまして、創造都市が地域の活性化に役立つ効果があるとお伝えしてきました。昨日スタートいたしました東アジア文化都市も、創造都市の取組を内外へ発信する大きなチャンスであると捉えております。この事業では今後一年を通じまして日本、韓国、中国のそれぞれ文化の交流による連帯感の向上を目指しまして、多彩な文化イベントを開催しております。内外から訪れる多くの方々に各国の豊かな文化に親しんでいただき、横浜の文化芸術の創造性を活かした街づくりを体感していただきたいと取り組んでまいります。昨日のオープニングでは歴史的建造物を創作拠点としているアーティスト、クリエイター達の活動を会場でご紹介申し上げました。更に今年は創造都市横浜のリーディングプロジェクトである横浜トリエンナーレの開催年でございます。東アジア文化都市を契機に一層、創造産業の創出や観光産業振興など街の活性化を目指しております。

本日の総会では規約改正や26年度の事業計画についてご審議をいただきます。午後には、横浜市と同じ東アジア文化都市の開催都市である中国泉州市、韓国光州市からゲストをお招きいたしまして、東アジア文化都市交流シンポジウム「芸術文化と都市の再生」を開催いたします。文化庁のご支援のもと、更なる活動を推進いたしまして創造都市の取組

を皆さまと手を携えて、一層発展させ、社会全体の活力に繋げていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。本日はご参加ありがとうございます。

司会（金野氏）

林市長、ありがとうございました。続きまして、青柳正規文化庁長官のご挨拶でございます。青柳長官、よろしくお願いいたします。



■文化庁挨拶

文化庁長官 青柳正規氏

このネットワークが出来てから1年経っておりまして、都市文化創造機構の佐々木先生をはじめ、横浜市や金沢市、神戸市、鶴岡市、篠山市の幹事団体、創造都市ネットワークの方々のご尽力に大変感謝を申し上げます。

今私が申すまでもございませんが、創造都市というのは大変世界で注目され、活発な活動しております。ちょうど1980年頃、ナント市でジャン＝マルク・エローという大変すぐれた市長が「文化でこの町を再興させる」ということを公約に掲げ、選挙をとおります。その当時ナント市は造船業中心の都市でありました。ところが、1960年頃から日本の造船業が大変盛んになってきた為に、お家業であった造船業がどんどん衰退をしていってしましまして、いわゆる「ものづくり」ではもうやっていけないということを、ジャン＝マルク・エローが、大変鋭い歴史感というか将来を見渡す感覚を働かせてですね、これからは文化であるという事を掲げていきます。そして有名なラ・フォル・ジュルネという熱狂の日というものをナント市で始めて、1週間ほどの期間中、だんだん増えてコンサートも200、300までとなっていく。ですから若者たちもコンサートを見たいが為に、会場から会場まで移る時に走りながら次に行くという、まさに狂瀾の日々になるくらいの状況が生まれるという事があって、見事に街が文化を軸にしながら復興していきます。その過程に、様々な文化的な充実が行なわれた為に、例えばフランスの鉄道公社が予約センターを

地方におかなければならないという時に、社員にアンケートをとります。そうすると社員達は地方に行くのだったら、一番文化的に優れている、充実している都市がいいという事で、ナント市がアンケートでトップになる。その為に予約センターがナント市に移ると、そこに約5千人の雇用需要が生まれて、そういうものが出来ると違う会社が地方に展開しなくてはいけないという時にナント市を選ぶ。ということで、雇用にまで大変な需要を文化が喚起した、というような事が次々に現れてきます。その成功話がヨーロッパに広がって、たとえばリバプールであるとか、ルール地方のドイツ側のドーナツであるとか、他にもたくさんナント市を手本にしながら、クリエイティブシティというものが展開していく。

そういう動きがあったから、ユネスコがこの創造都市というものを軸にしながら、現代文明の中で文化というものを更に強化していこうということで、その枠組みを作っていきます。そしてその結果、今30余りの都市があり、日本では金沢、神戸、名古屋、札幌が手を挙げて、どんどん広がっていきます。その中で、やっぱり非常に重要な役割をするのが、このネットワークです。つまりネットワークを作ることによって、あの都市はこんな事をやっている、この都市はああいう事をやっている、私の所はこういう事をやっているという事で、それぞれの都市でそれぞれがもっている歴史的、文化的コンテンツがあるので、それをネットワーク上で情報発信して、それを自分達の都市の一番いいところ取りをしながら、充実させていくという事が、大切なことになる。ですから創造都市ネットワーク日本、CCNJはこれから非常に大きな役割を果たしていくものと考えております。その為に文化庁としましても、出来る事をやっていきたいと思いますが、今現在創造都市の取組を推進する為にひとつは文化庁長官表彰、これは創造都市部門ということでやっております。それから国内ネットワークの充実強化、それから創造都市モデル事業ということをやっております。それからこの4月の新年度からはですね、創造都市関係予算として地域発文化芸術創造発信イニシアチブ事業において3億円を計上し、地方自治体への支援メニューを創設するなど、文化芸術の持つ創

造性を地域の観光や文化などに活用していくよう取り組んでおります。2020年はスポーツだけではなく、文化もオリンピック、パラリンピックの核にしていこうということをやりだしておりまして、下村文部科学大臣も1万人のアスリートが来るのだから1万人のアーティストを呼ぼうじゃないか。それから、全国の津々浦々、文化で2020年を祝っていこう。しかもスポーツの場合は開催期間だけですけれど、その前とその後は文化で日本の力、あるいは社会の充実というものを図っていこうと考えており、CCNJに大きな大変な役割を担っていただけるものではないかと期待しておりますので、是非宜しくお願いします。

■議案審査

議長（横浜市文化観光局局长 中山こずゑ氏）

熱い長官のお言葉をいただきまして、本当に心強く思っているところでございます。本日の会議の議長を務めさせていただきます、横浜市文化観光局長の中山でございます。会議終了まで宜しくお願いいたします。

それでは、お手元の議案書の「会議次第」に沿って進めてまいります。なお、本日の会議の出席団体数・個人会員の出席者数です。

- 自治体 22団体
 - 自治体以外の団体 7団体
 - 個人会員 3名
- となっています。

それでは、議案の審査に入りたいと思います。

第1号議案 「規約の改正について」

第2号議案 「平成25年度事業報告について」

第3号議案 「平成26年度事業計画について」

第4号議案 「次期幹事団体の改選について」

を一括して議題に供したいと思います。それでは、各議案の説明を、事務局よりお願いします。

横浜市 文化観光局創造都市推進課

藤田健一氏

皆さま、おはようございます。事務局をしております

司会（金野氏）

青柳長官、ありがとうございました。なお、林市長は、他の公務のためここで退席となります。どうもありがとうございました。

続きまして、本日のネットワーク会議の議長ですが、代表幹事団体であります横浜市より、文化観光局の中山こずゑ局長にお願いしたいと思います。皆様、拍手をもってご承認いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。（一拍手）

皆様ありがとうございます。それでは、ここからの議事の進行は、中山局長にお願いしたいと思います。中山局長、よろしく願いいたします。

す、横浜市文化観光局創造都市推進課、藤田と申します。お手元の議案書に沿ってご説明させていただきますので宜しくお願いします。

議案書の1ページ目をご覧ください。

第1号議案「規約の改正について」

内容としまして1点目は団体の参加届の規約の一部の改正を、2点目は幹事団体の定数の改正をお願いするものでございます。

1点目は、規約の第6条では、「創造都市ネットワーク日本への参加届（団体）（様式1）」となっておりますけれども、様式中に本ネットワークの会員の推薦を求めるというもので、自治体以外の団体という事になります。従前から、個人会員の場合は推薦を求めるものとなっておりますけれども、実際に実務を処理するなかで、実態の分かりづらい団体から問い合わせ、という事もございましたので、本ネットワークの会員の推薦をいただきたいというものでございます。

2点目は、参加団体が増加しているということもありまして今32団体という事になっておりますので、それに併せまして幹事団体の定数を5から7に増やすものでございます。

「第2号議案 平成25年度事業報告について」

始めに本ネットワーク運営につきまして、規約第9条により3人の方に顧問にご就任していただきましたので、ご報告させていただきます。

- ・国立新美術館館長 元文化庁長官 青木 保様
- ・前文化庁長官 近藤 誠一様
- ・大阪市立大学大学院都市研究科教授／同都市研究プラザ所長 佐々木 雅幸様

それでは早速ではございますが、顧問の方々にひと言ずつご挨拶をいただきたいので、宜しくお願いします。

顧問挨拶



国立新美術館館長 元文化庁長官 青木保氏

ご紹介にあずかりました、青木でございます。宜しくお願いします。

日本の発展というか、それこそ日本の回復は全国にある大中小の都市をいかに活性化させるか、いかに創造的な魅力的な都市を作れるか、ということにかかっていると思います。都市が脆弱になると国や地域全体が脆弱になる。その意味で創造都市ネットワークは大変重要であると思います。

これは個人的な話ですが、ここでいうのもちょっと恥ずかしいのですが、私は最近横浜にはまっておりまして、横浜にはみなとみらい地域をはじめ美術館も含めて、新しい素晴らしい所があるのですが、私は、これまで60年以上のジャズ音楽の愛好家でありまして、ここには金沢市の山名市長がいらしていますが、金沢では9月に金沢ジャズストリートという催しが3日間あるのですが、毎年友人たちを連れて金沢詣でをすることにしています。横浜には、開港以来のジャズの伝統があるのですが、今では非常に珍しい、レコードとかCDとかでジャズを聴かせるジャズ喫茶、東京ではほとんど無くなってしまったのですが、横浜には桜木町の近くに有名なジャズ喫茶があります。そこのマスターが先年亡くなってどうなるかと思っていたら、地元商店街が応援して新しい店が出来まして、今日も実はこの後

そこに行こうかと。最近私の楽しみは、週末の午後来て、4軒あるジャズ喫茶で、ジャズを数時間聴きまして、その後中華街に行きます。これが大変いいですね。中国語圏以外の世界のさまざまな都市にある中華街の中では、今一番いいのではないのでしょうか、美味しくて安い。そして関内にあるジャズのライブハウスへ行く。そういう昔から息づいている横浜のジャズ音楽と中華街の料理文化を吸収して、夜の11時過ぎに家に帰る。これが出来ると、精神を一新されると言いますか気持ちが寛ぐ。創造都市も新しいものばかり作らないで、そういう地元の文化というか、ジャズはいまや日本の現代文化ですからね、それを残して大事にしていきたいと思います。



前文化庁長官 近藤 誠一氏

おはようございます。昨年の7月に退官をしました近藤でございます。

私はかなり前から、これからは文化の時代であり、都市の時代であると感じて参りましたが、3年間の文化庁長官の仕事を通してこのことを確信した次第であります。佐々木先生のリーダーシップがあり、世の感心が高まり、CCNJが一年前に出来たということで、非常に何事も動かすのが難しい今の世の中で、これほど短期間で、実のある結果が生まれたムーブメントというのはそれほど多くないと思います。そういう意味では皆さんの気運が高まっているという事、佐々木先生のリーダーシップ、また欧米の理論とヨーロッパの都市における実践というのが上手にかみ合って、それを我々が上手く吸収してこれだけの動きになったと思っております。これからがたいへん楽しみです。そしてまた先ほど市長さんとおっしゃった東アジア文化都市、これもまたこういう難しい状況の中で、ちょうど私が長官の時に日本から日中間の文化大臣会合で提案をして、わりとすんなりと受け入れられたのですね。その後の状況でダメになるかと思ったのですが、これだけは上手くいっている、という事は、やっぱり都市だからですね。国ではなくて都市の動きだ、ということがやらして

おこうかということになったと思います。そういう所も、都市が活躍する場があるという事を如実に現していると思います。

私は退官して今、いくつかの大学で教えていますけれど、実は佐々木先生も一緒に京都の同志社大学で創造都市理論という、講座というか研究会というのがございまして、そこで理論と実践と両方を教えながら、勉強しながら、この国の活性化にお役に立てればと思っております。皆さん方は、文化は大事だという確信を持っておられると思いますが、まだ国全体を見ると「何故文化か」、という声もまだまだあると思います。最近ロンドンオリンピックの文化プログラムをした3人のイギリス人の女性の説明会がございました。そこで聞いてなるほどと思ったのは、「何故文化か」という質問の際、「今までいろいろやってみた、結局最後は文化しか残っていない。文化をやった、そしたら成功した」と言っていました。という事で、誰もが文化を思いつく訳ではないかとも思いますが、今現実的なのは文化の力だと言う事をイギリスが証明してくれたと思います。したがって、これから「これ以上市の文化の予算を増やしていいのか」と、あるいは議会からの抵抗があったりするかもしれませんが、今のイギリスの経験、言葉を思い出して頂いて、これから皆さんのリーダーシップにより、このうまく誕生し、発展しつつある CCNJ を将来にわたって発展させていただければと思います。

私も新しい立場で自分自身の事務所、文化外交研究所というのを立ち上げました。それはひとつでいえば文化の力で日本を活性化し、そして国際的な日本のイメージを上げていくことに、今残りの人生を尽くしたいという意向でございます。皆さんと手を携えて創造都市を軸にして日本を元気にしていこうということで、私も力を尽くしたいと思います。宜しくお願いいたします。



大阪市立大学大学院都市研究科教授 同都市研究プラザ所長 佐々木雅幸氏

おはようございます。私はまず本の宣伝をさせていただきます。創造都市ネットワーク日本の拡がり

の中で創造農村という、農村部からの動きも出てまいりまして、創造農村ワークショップを仙北市、篠山市、昨年は木曽町でやらせて頂きました。これをまとめた『創造農村―過疎をクリエイティブに生きる戦略』を出版しました。是非お読みいただくと、都市と農村双方で、このネットワークの動きが拡がるものと思っています。

私も大学で創造都市の講義をしてまいりましたけれど、具体的な実践が増えてまいりましたので、もっと政策評価とか、更にたくさんの自治体が取り組む場合どういう事に気を付けたらいいのかなど、より政策に近いレベルで研究なり、調査をしていく必要が出てくると思っておりました。そうした事を文化庁の担当の方々と話していたところ、それならば、これまで関西分室と言っておりました「関西元気文化圏推進・連携支援室」が京都府庁にあるのですが、それをこの4月から「文化芸術創造都市振興室」という名前に変えて、そういう政策支援のような事をやりましょうという事になりました。二束のわらじですが、室長をお引き受けすることにしました。そういった事で現在の職は退職しまして、先ほどお話があった同志社大学に移ります。今日午後、実は退職のお願いを教授会に申し出るために、申し訳ございませんが、11時前に退席いたします。引き続きこのうねりを更に定着させる為に、理論・政策面で一緒に歩みたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

横浜市文化観光局創造都市推進課 藤田氏

ありがとうございました。顧問の皆さまには、ネットワークの運営等に多大なご助言を賜りますように是非宜しくお願いいたします。

続きまして議案の説明に入らせていただきます。今年度の事業報告の2点目でございます。

○ 創造農村ワークショップ

- (1) 日程 平成 25 年 8 月 24 日 (土)・25 日 (日)
(2) 場所 木曽町郡民会館 (長野県木曽町) ほか
○ 創造都市政策セミナー

- (1) 日程 平成 25 年 11 月 2 日 (土)・3 日 (日)
(2) 場所 新潟東急イン (新潟市)
○ web サイトの改善

団体の会員情報を会員自ら発信するとともに、それらの情報を共有できるように改善してございます。

「第 3 号議案 平成 26 年度事業計画について」

1 から 5 までの事業を実施したいと考えております。それぞれ詳細は調整のうえ、会員の皆さまにご案内をさしあげたいと思いますので、宜しく願います。

- 1 創造農村ワークショップ
(1) 開催月日 平成 26 年 8 月
(2) 開催地 東川町 (北海道)
- 2 創造都市政策セミナー
(1) 開催月日 平成 26 年 8 月
(2) 開催地 札幌市
- 3 創造都市ネットワーク日本 首長サミット・国際シンポジウム (仮称)
(1) 開催月日 平成 26 年 10 月
(2) 開催地 横浜市
- 4 ネットワーク会議 (総会)
(1) 開催月日 平成 26 年度中
(2) 開催地 次期代表幹事都市
- 5 その他規約第 4 条に掲げる事業

この他にも web サイトの更新等もおこなっていききたいと思いますので宜しく願います。

「第 4 号議案 次期幹事団体の改選について」

- 1 幹事団体 (案) (五十音順)
 - ア 金沢市 (代表幹事団体)
 - イ 神戸市
 - ウ 篠山市
 - エ 札幌市
 - オ 鶴岡市
 - カ 新潟市
 - キ 浜松市
- 2 任期

平成 26 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで金沢市、神戸市、篠山市、鶴岡市さんには、引き続き幹事団体をお願いいたしたいということ。意向調査を 10 月に行なっておりまして、就任意向をお示しいただきました、札幌市、新潟市、浜松市が加わりまして、7 団体に。金沢市さんが代表幹事。そして任期は 2 年ということでございますので、自治体の会計等に合わせまして平成 26 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までにしたいということでございます。

なお、創造農村ワークショップ、政策セミナーの方を議案とさせていただいておりますけれど、補足等ありましたら、お話いただければと思っておりますがいかがでございましょうか。

東川町写真の町課 竹部修司氏

皆さんおはようございます、北海道は写真の町、東川町の写真の町課の竹部と申します。宜しくお願いします。只今創造農村ワークショップの 4 回目を北海道の東川町でということ。日程的には 8 月 9・10、土日になりますけれども、東川町国際写真フェスティバルのイベントにぶつけて、この創造農村ワークショップを開催したいと思っております。札幌市さんとも連携をとりながら、進めてまいりたいと思いますので、是非東川町の方にお越しいただければと思います。宜しくお願いいたします。

札幌市 市長政策室プロジェクト担当係長 山口康広氏

札幌市の山口と申します。この度次期幹事団体として立候補させていただいております。札幌市は昨年ユネスコ創造都市ネットワークに加盟いたしまして、これからさらに創造都市を加速して進めていくというところでございます。国内におきましても、今後は CCNJ の枠組みを使いまして自治体の方々、幹事団体の方々、あるいはその他関係団体や個人の方々と協力していきたいと思っております。今年はその最初の年という事でございまして、セミナーの方を 8 月に開催したいと思っております。東川町さんとも連携していきたいと思ひますし、今年は札幌市も札幌国際芸術祭の年でありまして、ちょ

うど7月から9月まで開催しております。そういうものとも連携しながら、皆さまをお迎えするように進めていきたいと思ひます。今後とも宜しくお祈ひします。

横浜市 文化観光局創造都市推進課 藤田氏

東川町さん、札幌市さんどうもありがとうございます。説明は以上になります。どうぞご審議宜しくお祈ひいたします。どうもありがとうございます。

横浜市 文化観光局局长 中山氏

ただ今、事務局より、議案の内容についての説明がございましたが、顧問の佐々木先生、補足等がございましたら、お祈ひいたします。

顧問 大阪市立大学大学院都市研究科教授 同都市研究プラザ所長 佐々木氏

今年は、お話がありましたように、札幌市で国際芸術祭があるということと、東川町の写真の記念事業がある。2つが重なってありますので、例年はワークショップとセミナーは1ヶ月程度空けていたのですが、思い切って2つ重ねて連続的に行ける設定にさせていただこうというのが、今年新しいところ。また、横浜市さんが秋に行われる東アジアのコア期間に全国の首長が集まって、海外の方々も交えた取組をすると、東アジアのみならず、東南アジアの創造都市の代表の方もおそらく参加できるのではないかと。次のある展開、東アジア文化都市をさらにアジア全域に広める、というようなことが出来ればいいと思っております。内外ともに更に一層の広がりを生んでいきたい。宜しくお祈ひします。

議長（中山氏）

佐々木先生どうもありがとうございます。夢がどんどん膨らんでいくような感じでワクワクします。それでは議案についての質疑討論を行いたいと思ひますので、ご発言される場合にはスタッフがマイクをお持ちしますので、是非この場をご利用なさって、挙手をお願いしたいと思ひます。また、ご

発言の冒頭には、団体名、肩書き、お名前をおっしゃっていただきますよう、お祈ひいたします。

神戸市 企画調整局デザイン都市推進担当局長 安廣哲幸氏

神戸市、企画調整局デザイン都市推進担当局長の安廣哲幸です。まず、横浜市さんには本当に感謝を申し上げます。幹事につきまして、私どもは引き続き頑張らせていただきたいと思っております。ネットワークが非常に大切だということで、長官をはじめ色々とお話いただいたのですが、このCCNJは一年少し経ったところであります。ネットワークが育成、熟成されていくその前に、すぐに成果を求められる側面もありまして、前長官がおっしゃったように、予算の中で苦労したり四苦八苦したりしています。じっくりと構えて底上げする必要がある一方で、何か目に見えるような、例えば「このネットワークは神戸としてもこんなに役に立っているよ」という、議会や市民に訴えるような展開ができればと思ひています。今回のメニューを見てみると、いろんな形で次々と盛り上げつつありますので、是非をこれからの事業展開にあたっては、文化庁のご指導をいただきながら、一緒になって盛り上げていきたい。これは質問とか意見ではないですけど、自分のところの思ひも含めて、発言ということにさせていただきますと思ひます。

文化庁長官 青柳氏

今の神戸市さんのお話で思いついたのですけれど、これから創造都市で予算も使い人も使って、色々やっていただいて「成果をなんだ」と言われた時に、なかなか1年や2年ですぐ出せるものではないと思ひます。が、そうしているうちに、数字にならないと言っているうちに、5年10年経ってしまう可能性があると思ひます。今から、世論調査でもいいですし、文化に関する予算に対する投資効果というか、なんらかの方法で、創造都市、文化都市をやったポリシーが具体的に目に見える成果になっている。それは経済効果だけでなく、もちろん定性的なものでもいいですけど、効果があるということを間接的に示せるよう、今あるところから持ってくるのでは

なくて、統計を作る体制を今からとっていただくことで、５年目１０年目に成果が目に見える形で出せるという仕組みを市で作っていく、もしくはネットワークとして共通のものがあればもっといいかもしれません。そういうことを考えていただければと思います。

顧問 国立新美術館館長 元文化庁長官 青木氏

神戸の方がいらっしゃるの。元町の商店街に、これも日本有数のジャズ喫茶があるのですが、そこを訪れることを楽しみにしています。年に３回くらい、その為に神戸に行くのです。そういうものを絶やさないでいただきたい。横浜市もそうですけど、そういう物が残っていて、しかも市民や商店街がバックアップする。このようないい所を残さないと、新しいものばかりでは、なかなか町の魅力とはならない。ジャズに引きつけて言いましたが、もちろん他にもさまざまなことがあると思います。宜しくお願いします。

金沢市長 山野之義 氏

第４議案までお認めくださったら、代表幹事挨拶のところでお話をさせていただこうと思っていたのですが、今ふっていただきましたので、お話をさせていただきます。来年２０１５年の５月にユネスコ創造都市ネットワークの世界会議が金沢で開かれることが、去年の９月、ボローニャ会議で正式に決定いたしました。２０１１年ソウルの世界会議で正式に立候補を示してから、東京オリンピック、パラリンピックではございませんけれど、いわゆるロビー活動を重ねまして、決定致しました。これはしっかりやっていたかなければいけないと思っております。

先ほど神戸市さんの方からお話がありましたけれど、確におっしゃることがよく分かります。金沢の場合は、幸い今申し上げましたとおり２０１５年の世界会議がありますので、きちんと成功させるということで議会も市民の皆さんもご理解をいただいているというふうに思っておりますし、これを契機にまちをひとと言で言う元気にする。またいろんなことと言えば選択肢が増えている、見えてくると思いますので、その選択肢をしっかりと捕まえて新

しい展開をしていく。もちろん先生がおっしゃったとおり、残さなくてはいけないものをしっかり残していきながら、強い刺激を与えていきながら、新しい街づくりの選択肢というものを見極めて、しっかりと捉えて作っていくことが大切かなと思っておりますし、是非神戸市をはじめその会議にご出席いただきまして、我々にとってもそうですし、お越しいただいた皆さんにとってもいろんな刺激を持って帰っていただけたらと思いますし、そこからまた新しいまちづくりのヒントというものが、きっと見えてくるのかなと思っておりますので、お互い高め合う場にできればと思っています。

議長（中山氏）

他に、ご発言はございますか。ありがとうございます。それではこれまでのご意見を踏まえまして議案の採決に入りたいと思いますが、いかがでしょうか。

【異議なし】

ありがとうございます。それでは議案の採決に入りたいと思います。本ネットワークの規約第１０条第３項では、総会にご出席の構成員の「過半数」をもって議決となります。

本日の会議の出席団体数・個人会員の出席者数は、

○自治体２２団体

○自治体以外の団体７団体

○個人会員３名、

「過半数」が１７となります。よろしく申し上げます。また、採決の方法については、各団体１名及び個人会員の方の「挙手」にて行わせていただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

それでは、第１号議案「規約の改正について」の採決を行います。議案に賛成の方は、挙手をお願いします。

【賛成者 挙手】

ありがとうございます。賛成多数ですので、第１号議案は「承認」とさせていただきます。

続きまして、第２号議案「平成２５年度事業報告について」の採決を行います。議案に賛成の方は、

挙手をお願いします。

【賛成者 挙手】

ありがとうございます。賛成多数ですので、第2号議案は「承認」とさせていただきます。

続きまして、第3号議案「平成26年度事業計画について」の採決を行います。議案に賛成の方は、挙手をお願いします。

【賛成者 挙手】

ありがとうございます。賛成多数ですので、第3号議案は「承認」とさせていただきます。

続きまして、第4号議案「次期幹事団体の選任について」の採決を行います。議案に賛成の方は、挙手をお願いします。

【賛成者 挙手】

司会（金野氏）

中山局長、ありがとうございました。では今年度に新しく参加されたお名前から紹介したいと思います。資料をご覧ください。右端に届の受理日がございます。こちらを参考にしてください。

- ・埼玉県 さいたま市
- ・千葉県 佐倉市
- ・神奈川県 小田原市
- ・新潟県 十日町市
- ・静岡県 静岡市
- ・滋賀県 草津市
- ・滋賀県 守山市
- ・奈良県 奈良市
- ・福岡県 久留米市、

以上9自治体が参加されました。

- ・東京都 音楽文化創造 様
 - ・滋賀県 滋賀次世代文化芸術センター 様
- この2団体が新規の加盟となります。

合計11となります。お時間もございますので、ご発言をされたい方がおられましたら、是非宜しくをお願いします。

ありがとうございます。賛成多数ですので、第4号議案は「承認」とさせていただきます。

以上をもちまして、すべての議案が採択されました。皆様、ありがとうございました。ここからは、司会にマイクをお返しします。



守山市 教育委員会事務局文化スポーツ課長 田中滋規 氏

失礼いたします。滋賀県の守山市、教育委員会事務局文化スポーツ課長、田中滋規でございます。一番新しく加盟させていただいた団体でございますので、ご挨拶をさせていただきます。守山市は滋賀県の琵琶湖のほとりにございまして、人口8万人の市でございます。夏は琵琶湖で泳ぐことができ、今の時期でしたら30分程車で行きますとスキーも出来るという大変自然に恵まれた場所でございます。現在の宮本市長が、ナント市を見習った文化都市にしたいという非常に熱い思いを持っておりまして、この創造都市ネットワークの話があった時にも二つ返事にすぐに加わり、行って来いと言うことで本日伺った次第でございます。

まだまだ文化を中心に町おこしということで、いろいろ模索している段階ですけれど、こちらチラシをお持ちしております「ルシオール アート キッズフェスティバル」というのを2年前から開催しておりまして、これは琵琶湖ホールで行なわれます「ラ・フォル・ジュルネ」という音楽祭のイベントということで、守山市の方で行っております。昨年と一昨年は1日の開催だったのですが、本年度4月5日、6日の土日2日間開催いたしまして、

街中ではいろんな屋台もあり、音楽を楽しみながら、食事ができる。2日目につきましては市民ホール、それから立命館高等学校と中学があるのですが、そちらを中心に致しまして、音楽イベントであったり子どもを中心としたワークショップであったりを、楽しんでいただこうというイベントを開催しております。横浜からでも3時間で来られるという大変交通の便もいい所でございますので、是非皆さんもお越しいただいて、皆さんの情報も得ながら、文化都市としても発展していけるように頑張りたいと思っておりますので、どうぞ皆さん宜しくお願いいたします。

奈良市 市民活動部参事 西崎美也子氏

奈良市からまいりました、市民活動部参事文化振興課長、西崎美也子と申します。昨日は東アジア文化都市のオープニングセレモニーに参加させていただいて、カルチャーショックをうけました。後半のでんぱ組.incの元気なステージを見せていただきまして、女の子の元気なステージにも驚きましたが、客席の方にはじけておられる観客の方々にも驚きました。やはり今の日本の文化をひとつ象徴しているものかと思い刺激をいただきました。

奈良市は皆様ご存じのように1300年の古都、世界遺産の町ということで知られている訳でございますけれど、昨日のオープニングセレモニーを見まして、やはり奈良の役割というものも強く感じました。横浜に行きますと、新しい文化、近代の文化を目にいたします。そういうものと、奈良時代の文化、いろんなものを残していかなければならないという思いを強くいたしております。奈良市では有名な大和路を撮り続けた入江泰吉という写真家がおられました、奈良市は入江泰吉記念奈良市写真美術館を運営いたしておりますが、今年から入江泰吉記念写真賞という、写真の賞を創設することになりました。この写真賞を二年に一度、全国の皆さんから写真を応募していただきたいと思っております。奈良の写真というのでなくても、勿論奈良に来て奈良の写真を撮ってもらってもいい、全国の街並みの美しさ、人の営み、いろんなものを切り取っていただいて、ご応募していただきたい、とここで宣伝させていた

だきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

十日町市 観光交流課長 渡辺正範氏

皆さんこんにちは。新潟県十日町市からやってきました観光交流課、渡辺と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。私どもの十日町というのは新潟県の南部でございます。人口は6万人。名だたる豪雪地でございます、人口の密度の高いところでの積雪量は世界一だと、逆の言い方をすると普通ならば人が住む所ではないと、いう所でございますが、そういう所でいろんなことをさせていただいております。名だたる豪雪地でございますので、過疎高齢化も最先端、そんな中で地域文化というのが、古くからは国宝火焰型土器をはじめとする縄文文化、そこから連綿と里山文化が、自然も含めて、連綿と続いてきた。それが今になってプラスの部分もありますけれど、過疎高齢化が進み、空き家、廃校も多く空き家は1000件以上、廃校は20数校あります。

そういった、ともすれば負の財産となりがちなものを、文化の力、アートの力で光を当てて地域再生に結び付けていこうということで、「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ」というのを2000年から始めさせていただいております。一昨年第5回目を、文化庁さんから多大なご支援をいただきながら、成功に収めることができました。ありがとうございました。私どもが2000年に始めた時は、芸術で町づくりなんてとんでもないと言われていた時でありました、どぶに捨てるより勿体ないと議員さんからも言われました。そんなものでうちの前の側溝が直せるのか、道がきれいになるのかと言われたのですが、今は「町づくりは芸術だね」とおっしゃってくださっているのですね。私はそんな風に心が変わるのは、ありがたいなと思っております。これは文化の力、芸術の力だと思ってやっておりますし、こういった過疎の町の地域のお年寄りが、元気に「うちの街は芸術の町だよ」と言ってくれています。そういう、地域、あるいは人の心の再生が一番大事だと、内外にアピールしていきたいと思っております。

私どもは小さな所ですけど、CCNJの中でど

れだけの役割が果たせるかどうか分かりませんが、とりあえず来年第6回目を開催させていただく予定でございます。文化庁をはじめ皆さまのお力をいただきまして成功に向けて努めてまいりたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

静岡市 企画課参事 青嶋浩義氏

静岡市企画課の青嶋と申します。このたびは、本会への参加をお許しいただき、誠にありがとうございます。先ほど神戸市さんから、「文化の振興については、経済という側面からその効果を計れるかが、課題となっている」とのご意見がありましたので、少し発言させていただきます。

静岡市では昨年、近藤前長官をはじめ文化庁の皆さまのご尽力によって、「三保松原」が富士山世界文化遺産の構成資産として登録されました。以前の「三保松原」というのは、皆さんが実際に行ってみると、がっかりしてしまうような、さびれた観光地の一つであったと思うのですが、登録を受ける少し前から、お客様が増え続けまして、現在も、毎日3倍以上の方々にお越しいただいております。

土産品も、たいした物は置いて無かったのですが、今、現地のお店は相当の売り上げになっているという事で、あまりの反響の大きさに驚くとともに、市や県も、受け入れ体制の整備等、様々な取り組みをスタートいたしました。

今回、本ネットワークに参加させていただきかけにもなりましたが、うちの市長が、「これからは創造都市だ。」という事で、私ども職員も、昨年から佐々木先生の著書で創造都市の勉強をさせていただきました。しかし、「文化を活かした地域の活性化」というようなことを、実感として理解することがなかなか出来ませんでした。しかし、「三保松原」の件をきっかけに、地域の皆さん自らが課題解決のための活動を始めたり、また、市長もいろいろな場面で「地域の文化に創造性というスパイスをふりかけて、経済力に変えていく」と繰り返し発信するなど、私どもも、いま正にその意味や効果を実感しているというのが、現在の状況です。

「三保松原」に関しては、たくさんの課題もあって、その解決にはまだまだ時間がかかりますが、本

ネットワークに参加させていただき、会員の皆さんとの情報交換等もさせていただきながら、着実に推進していきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

司会（金野氏）

ありがとうございました。それでは最後のプログラムに入ってまいります。

それでは、改めて次期幹事団体に選出されました団体の代表の皆さまをご紹介します。

- ・神戸市 安廣哲幸 様
- ・鶴岡市 阿部知弘 様
- ・札幌市 山口康広 様
- ・新潟市 松田暢夫 様
- ・浜松市 影山伸枝 様
- ・篠山市長 酒井隆明 様

篠山市酒井市長、せっかくですからご挨拶いただけませんか。

篠山市長 酒井隆明氏

兵庫県の篠山市、丹波篠山です。黒豆が一番皆さん知っていただいておりますので、歴史的な街並みを大切にしたい、文化の薫る町という事で平成20年に、文化庁長官表彰「文化芸術創造都市部門」を受賞しました。ちょうど青木先生からいただきまして、どうもありがとうございました。それ以来こういう創造都市の取り組みをしているのですが、私の所は小さな農村部ですので、創造農村という取組をしております、今日この佐々木先生の本の紹介チラシが配ってあるのですが、写真がありますね、これ写真篠山市の写真ですね。ちょっときれいに写りすぎているとおもっておりますけれど、また色々ご指導いただければなと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

司会（金野氏）

つづきまして金沢市長 山野之義 様

以上、7団体となります。山野市長改めてご挨拶宜しくお願いいたします。

代表挨拶



金沢市長 山野之義 氏

改めましてこんにちは。只今、代表幹事にお認めいただきまして本当にありがとうございます。これまで横浜市さんが、ずっとお骨折りしていただきまして心から感謝を申し上げたいと思いますし、その想いをしっかりと継いで取り組んでいきたいと思っています。

お三方の長官の皆さんには、金沢はいろんな縁をいただいております。青柳長官には先月、創造都市のフォーラムで基調講演をいただきました。青木先生は自己紹介にありましたけれど、金沢市が毎年9月に行なっております、ジャズストリートでアドバイザーとしてご助言をいただきながら、素晴らしいイベントになっていると自負しているところがあります。また、近藤先生にも金沢の経済団体が金沢創造都市会議を開催しておりまして、そちらの場でも講師としてお越しいただいたり、また同じく本市の創造都市フォーラムで基調講演をいただいたり、大変力強いご支援をいただいているところでございます。先ほど申し上げました通り、2015、来年5月に世界会議を金沢で行います。世界中から創造都市の関係者と、創造都市ネットワーク日本のみなさんにお越しいただいて、いい会にしたいと思っています。

ちょっとだけ金沢の宣伝をさせていただければと思います。創造都市と金沢の接点を少しだけ説明させていただければと思います。恐らく金沢のイメージというのを皆さん歴史、文化、学術というように思っているのではないかと思いますし、その通りです。これは、色々勉強してきて、歴史の必然と歴史の根源の両方があったなということだと思います。歴史の必然はご存じのとおり加賀120万石、でも外様でありました。特に3代藩主までは徳川家に睨まれて、いつ謀反を起こすかわからない。加賀藩もそんな気はないのですが、徳川家に睨まれてはたまらない。歴代の藩主は、武のほうではなく文の方にずっと力をいれてきました。特に5代藩主綱紀公の時は、文化を家老だけではなく、庶民にも広げる努力をずっとされてきました。それ

が今日まで連綿と繋がってきたというふうにしてあります。これが歴史の必然です。歴史の根源、これは言葉も選ばなくてはいけませんが、金沢市は400何年間にわたりまして戦災に遭うことがありませんでした。戦争に巻き込まれることはなかった、大きな自然災害に襲われる事ありませんでした。ですから古い街並みも残っていますし、先ほど必然のところでは言いましたけれど、先輩方が連綿と繋げてきたものがいまだに根強く残っています。この2つがあったからだと思っています。例えば私の妻は、お茶と生け花を習っていました。私の下の娘は中学生ですが、週に一回小学校の頃から続けてきた日本舞踊を習っています。恐らく多くの家庭で自然な形で、連綿と繋がっているのではないかと思います。文化が生活の中に入り込んでいる、という表現でもいいのかもしれませんが。でもその文化が生活の中に入り込む為には、それが持続可能で400年間続くには、何といても経済的なバックボーン、ビジネスとして繋がらなければ続かないと思っています。藩政時代はお殿様がやれと言えよよかったかもしれませんが、今の時代そんな訳にはいかない。これはやはり何度も言いますが、連綿として残っている、常に生活の中にある文化をビジネスに繋げていくということを歴代の市長さん、職員の方、議員の皆さんが、意を持ってきたからだ。今日の金沢の創造都市として評価が、恐らくいただいていると思いますが、そこで世界会議が開かれることになったのではないかと考えております。これから先輩方が繋いできてくれたことを、今の市長として責任を持って後輩たちに伝えていかなければならないと思っていますし、その環境をきちんと作っていかねばならないと思っています。先ほど世界会議のところでは言いましたけれど、そんな事は金沢市ひとりが騒いだところで出来るはずがない、やはり皆さんにお越しいただいて、顧問の先生方に色々ご助言いただき、今の歴史や文化に常に刺激を与えてもらわなければいけないと思います。常に刺激を与えてもらって、変えるべきところは変えるという作業をやっていかないと、文化は廃れていってしまうと思いますし、創造都市金沢でなくなっていってしまうと思います。だからこそ、来年

5月に皆さまには、是非お越しいただきたいですし、
いろんなご助言をいただきたいですし、5月の前から5月の後も、ずっといいお付き合いをさせていただければと思っております。その為に精一杯努力をいたします事を誓い申しあげまして、私からの挨拶にいたします。どうもありがとうございました。

司会（金野氏）

山野市長ありがとうございました。

以上をもちまして、「平成25年度 創造都市ネットワーク会議」の午前の部を終了とさせていただきます。皆様、ありがとうございました。



<平成26年2月26日収録>

第 1 号議案 規約の改正について

創造都市ネットワーク日本 規約の様式の一部を、次のように改正します。

○ 創造都市ネットワーク日本への参加届（団体）（様式 1）中

「

主な取組実績（計画）をご記入ください。（別紙可）

」

を

「

主な取組実績（計画）をご記入ください。（別紙可）		
推 薦 （ 個 人 又 は 団 体 の い ずれか）	個 人	氏名
		所属・役職等
	団 体	名称
		代表の役職・氏名
		住所

※推薦は本ネットワークの参加構成員とします。

※自治体の場合は「推薦」欄の記入は不要です。

※自治体以外の団体の場合は、規約、会則その他これらに類するもの、役員名簿、団体の活動状況が分かる資料を添付してください。

」

に改めます。

○ 第 8 条（幹事団体会議）

第 4 項中 幹事団体の定数は、

「 3 から 5 程度」 を 「 5 から 7 程度」 に改めます。

第2号議案 平成25年度事業報告について

平成25年度中に以下の事業を実施しました。

○顧問の設置（五十音順）（規約第9条）

- ・ 青木 保（国立新美術館館長 元文化庁長官）
- ・ 近藤 誠一（前文化庁長官）
- ・ 佐々木 雅幸（大阪市立大学大学院都市研究科教授／同都市研究プラザ所長）

○ 創造農村ワークショップ

- （1）日 程 平成25年8月24日（土）・25日（日）
 （2）場 所 木曽町郡民会館（長野県木曽町）ほか

	8/24（土）	8/25（日）
テーマ		地域資産と創造農村
パネリスト （敬称略）	（現地視察）	田 中 勝 己 （木曽町長／木曽広域連合長） 入内島 道 隆 （前中之条町長／NPO法人ぐんまCSO理事長） 大 南 信 也 （NPO法人グリーンバレー理事長） 金 野 幸 雄 （流通科学大学教授／一般社団法人ノオト 代表理事）
モデレーター （敬称略）		佐々木 雅 幸 （大阪市立大学大学院創造都市研究科教授／同都市研究プラザ所長）
参加者数		86人

○ 創造都市政策セミナー

- （1）日 程 平成25年11月2日（土）・3日（日）
 （2）場 所 新潟東急イン（新潟市）

	11/2（土）	11/3（日）
テーマ	メディア芸術と創造都市	創造都市が目指すもの
パネリスト （敬称略）	酒 井 裕 司 （札幌市市長政策室政策企画部プロジェクト担当部長） 白 須 正 （京都市観光産業局長） 木 村 勇 一 （新潟市文化観光・スポーツ部長）	宮 武 寛 （高松市創造都市推進局長） 松 本 尚 人 （金沢市都市政策局企画調整課政策推進グループ長） 奥 田 裕 之 （横浜市文化観光局創造都市推進課長）

モデレーター (敬称略)	太 下 義 之 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター 主任研究員 ／センター長)	野 田 邦 弘 (鳥取大学地域学部地域文化学科教授) 佐々木 雅 幸 (大阪市立大学大学院創造都市研究科教授 ／同都市研究プラザ所長)
参加者数	100 人	

○ web サイトの改善



など

第3号議案 平成26年度事業計画について

次のように、平成26年度の事業を実施します。

1 創造農村ワークショップ

- (1) 開催月日 平成26年8月
- (2) 開催地 東川町（北海道）

2 創造都市政策セミナー

- (1) 開催月日 平成26年8月
- (2) 開催地 札幌市

3 創造都市ネットワーク日本 首長サミット・国際シンポジウム（仮称）

- (1) 開催月日 平成26年10月
- (2) 開催地 横浜市

4 ネットワーク会議（総会）

- (1) 開催月日 平成26年度中
- (2) 開催地 次期代表幹事都市

5 その他規約第4条に掲げる事業

※事業実施にあたっての留意事項

- ・規約第2条（目的）及び第3条（役割及び使命）の達成に資する内容とする。
- ・文化庁及び幹事団体会議が連携して推進する。
- ・事業の広報については、CCNJのホームページ（URL ; <http://ccn-j.net/>）を通じて行うとともに、文化庁及び関係自治体・団体にも協力を依頼する。

第４号議案 次期幹事団体の改選について

1 幹事団体（案）（五十音順）

ア 金沢市（代表幹事団体）

イ 神戸市

ウ 篠山市

エ 札幌市

オ 鶴岡市

カ 新潟市

キ 浜松市

2 任期

平成 26 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

東アジア文化都市レセプションへの名産品提供

本総会の前日となる、平成26年2月25日に行われた東アジア文化都市2014横浜のオープニングレセプションに、24のCCNJ参加団体の自治体からお酒及びお菓子の提供をおこなった。レセプションでは、多くの出席者に各都市のお酒やお菓子を堪能していただき、好評であった。



ご協力いただいた自治体



自治体紹介パネル



提供品のお菓子と案内カード



提供品のお酒と案内カード